

コンソーシアムの活動状況を知っていただくため、不定期でかわら版を発行しますのでご一読ください。

● ICT技術を活用した大型囲いわな捕獲の現場を視察しました

保育の合理化ワーキンググループでは、キックオフ研修会に先立ち、去る2月15日（木）、国立研究開発法人森林総合研究所関西支所の八代田主任研究員の案内により、三重県伊賀市で実施されているICT技術を活用した遠隔操作による囲いわな捕獲の現場を視察しました。

この捕獲方法は、餌を用いてシカを誘き寄せ、シカが囲いわな付近に近づくとセンサーが感知してCCDカメラが作動し、動画映像がリアルタイムでメール配信されます。捕獲者は、この動画映像をスマートフォンから確認でき、囲いわなに何頭入っているかを把握しながら画面上の捕獲ボタンを押すことでゲートが閉まる仕組みです。この様に遠隔操作によりシカ捕獲ができることから、毎日行う見回りの簡略化や、捕獲者のスケジュールに合わせた捕獲が可能となり、本業への影響を最小限に抑えつつ、成功すれば、群れごと一気に捕獲することもできます。

同ワーキンググループでは、来年度からこの捕獲方法に取り組みたいと考えています。



林内に設置された大型囲いわな



スマートフォンを使った捕獲

● 森林獣害対策担い手育成キックオフ研修を開催しました

保育の合理化ワーキンググループでは、全国的に農林業に深刻な被害を及ぼしている獣害への対策に向け、同ワーキンググループが主体となって、これからの獣害対策の中心となる担い手を育成するため、そのキックオフとなる研修会を去る2月22日（木）森林文化アカデミーにおいて開催し、28名の方が受講しました。

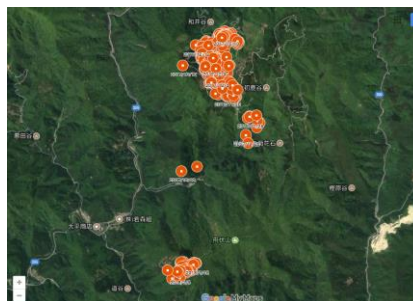
研修会では、森林文化アカデミー伊佐治教授から趣旨説明の後、一般社団法人森林技術協会他から「GPS発信機を付けたシカの行動把握調査結果」の報告、岐阜大学野生動物管理学研究センター池田特任助教から「岐阜大学が行うモデル的な捕獲事業に向けた予備調査」の報告がありました。

林業事業体からは、三重県伊賀市で実施されている先進地事例（上記参照）の紹介と、来年度からICT技術を取り入れた囲いわな捕獲にチャレンジすることの報告がありました。

同ワーキンググループでは、来年度から獣害対策の担い手を育成する本格的な研修プログラムを開始しますので、会員の皆様からの積極的な参加をお待ちしております。



熱心に耳を傾ける受講者



GPS 発信機を付けたシカの移動履歴

コンソーシアムで取り組んでほしい活動などありましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。

発行：岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム 事務局（岐阜県立森林文化アカデミー内）
〒501-3714 美濃市曾代88 / TEL:0575-35-2535 / FAX:0575-35-2529
E-Mail: gifu.shinrin.consortium@gmail.com